

青春の思い出のアルバム

波メロディ



今回はS28年卒、S29年卒の皆様からご寄稿いただきました。

紫紺の大優勝旗を

噛みしめて60年

鈴木 基之（S28年卒）

戦後の教育改革で、六・三・三制が布かれ、新制高校の第一期生として、昭和

部者が続出。五十数名いた

お優勝の味を噛みしめています。

なほ、北原、服部、花村



第5回選抜高等学校野球大会 優勝



〔写真〕

右から

北原

田所

横山

平井

橋本

鈴木

阿部

服部

望月

西村

松永

稲葉

松田



昭和27年全国選抜高等学校野球大会に優勝
甲子園に校歌「波メロディー」が高らかに奏でられた

静商を選んだ理由の一つには自宅が母校と同じ町内にあったからでもある。何しろ期末テスト中には仲良し三人で校内の用務員室に泊り込み勉強をさせてもらったこともある。大らかな時代であった。

また、部活はコワイ上級生に誘われて書道部入り、活動らしきこともせず当時、県下初という弓道部に時折り顔を出し「弓」を引いたりもしていた。

しかし、あの時の書道部員が私の人生を支える大きな柱になろうとは思像だに



昭和27年当時の静商新聞部一同
右から2番目が筆者

静商新聞

鈴木（旧姓黒柳）正子（S29年卒）

昭和二十六年、兄の母校という事で馴染みがあり、男女共学になって三年目静商に入学した。三百数十名中、女子は二十七名で一クラス3名か4名だった。女子のK先輩に魅せられて、新聞部に入り、新米ながら忙しく過ごした。

「静商新聞」は月一回の発行でタイトルの「異色ある先輩を訪ねて」が豆記者の始まりだった。緊張して、赤面する場面もあったが、有名な先輩にお会いできる嬉しさもあった。

あより雪

山田（旧姓中條）雅子（S29年卒）



卒業し四年後に女子短大に進学、遅ればせながらの勉強が始まった。男子生徒の中にあつてこそその芽生えでもあった。

現在は、最早や趣味とも言つていられない書の道に明け暮れている。喜寿を迎える頃になつても必要とされることのある幸福に感謝の日々である。

第六十五回 栃木県芸術祭 芸術祭受賞作品 「徒然草より」

